

にしとみおか・むこうばたいせき

西富岡・向畑遺跡

(伊勢原市No.160 遺跡)

調査期間 20070403～継続中

所在地 伊勢原市西富岡

時代

旧石器
縄文
奈良・平安
中・近世



作成日:20100405 更新:20120425

概要

西富岡・向畑遺跡は、中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設に伴う事前調査として、2007年4月から発掘調査を実施しています。

遺跡は、富岡丘陵の西側から南側にかけて南北約2kmわたって広がる遺物散布地として知られています。現在行っている発掘調査で、旧石器時代、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世の遺構・遺物が見つかっています。中世の遺構は、配石、井戸、道状遺構などが検出されています。道状遺構は、埋没谷の肩部に沿って数条が検出されています。また、井戸も2基ほど埋没谷の肩部から検出されています。

古墳時代から奈良・平安時代の遺構は、竪穴式住居址と掘立柱建物跡が検出されています。谷を挟んだ両側から多数の遺構が見つかっています。

縄文時代の遺構は、敷石住居址や竪穴式住居址・埋甕・土坑・集石・配石・落とし穴が検出されています。縄文時代中期から後期の遺構が中心です。1区の埋没谷からは、土坑や木組などが出土しており、土坑の中からほぼ完全の木製容器や網代が出土しています。

旧石器時代では、14区で石器が見つかっています。相模野台地のL1H層～B1層に相当すると思われる土層から槍先形尖頭石やナイフ形石器、剥片など800点を超える遺物



▲ 1区 木組検出状況



▲ 1区 13・4号土坑出土木製容器

が出土しています。また、礫群や炭化物なども検出されています。



▲ 14区 旧石器出土状況



▲ 14区 旧石器調査状況